




議員派遣
委員派遣

調査研修等報告書

收受年月日	議長	事務局長	書記	28年5月6日
28.5.6				
第 号				提出者 吉田 広明

議会議長
委員会委員長

派遣目的 (調査等 名称)	新人議員研修 (埴町管理施設及び各工事箇所見学)		
派遣の 日時	4月21日～22日	派遣先 (場所)	埴町内
内容	埴町にある、東白衛生処理組合施設、学校給食センター、埴中学校、武道館、埴第1水源、川上東河内線、林道大日向線 (常世中野)、若者定住住宅予定地 (末広町)、公共下水道施設 (上石井)、旧薩摩酒造工場/放射線測定・竹粉製造現場、板庭田野作湯舟線 (板庭) 計10か所の施設見学と工事現場の進捗状況確認。		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>各施設や工事現場の確認をしたが、時間が無く、質問が出来なかった。再度、各議員の意見結果を踏まえて希望施設の再派遣を要望したい。</p> <p>1、 東白衛生処理組合施設について、 施設が改修されたとはいえ、建屋機械室には煤塵が付着していた。密閉はされていても微細な煤塵は漏れ出している。当然、排気煙突からも保証値の煤塵、硫黄酸化物、ダイオキシン類、その他が、排出されている。周辺住民に対しての健康管理に留意して欲しい。一般廃棄物処分場は第2処分地が運用されていくが、何れ満杯になる。この処分地の問題は棚倉町、矢祭町、鮫川村も負わなければならない。不公平感は否めない。また、東白クリーンセンターのし尿処理施設の消却灰からも放射性分質が検出されているとの説明を受けたが、どのような理由に依るものか再度説明が聞きたい。</p> <p>2、 埴町学校給食センターの調理委託業務について、 [埴町行財政構造改革実施プログラム・平成20年度実施計画] 「第5節 公共施設のあり方を見直します。」(1) 事務事業の外部委託の実施で、給食センターの調理業務の民間委託を行ったと思われるが、(株)メホスに支出している調理業務委託料 24,000,000円は、調理業務者へ給与として適正に支払われているのか、調理業務者の話として、「給与がメホスになってから下がった。その内に給与を上げるからと言っていたが、今もベースアップの話はない。</p>		

このままでは大変です。」との声を聞いています。通常の業務委託業者は相応の手数料を受け取り、業務派遣を行うのが通例です。調理業務委託前年度の給与報酬総額と比較をしてみたいと思います。派遣業法が低賃金労働を生み、将来の不安が消費拡大へ繋がらず、経済的成長が低迷してる。

- 3、 埴町学校給食センター総務費の食育の推進について、
施策の方向の中で「地域農産物を活用しながら、」とありますが、成果指標「学校給食での地場産品の使用割合／平成27年度（目標値）45%、平成32年度（目標値）45%と同数である。目標値が上がらない理由は地場産品の仕入先として、道の駅からの調達率が上がらず、冬場の供給が少ない為との説明であった。しかしながら、業務の創造性から考えれば、「地域おこし協力隊」の定着が難しい成果の出ない状況を見直し、この事業とリンクは出来ないものか、例えば、故郷に回帰したい町内出身者に限定し、定住条件付き募集で空家と農地の紹介も含めながら、埴町学校給食センターの地場産品産品の納入取引を優先的に与え、農業経営の基礎売上を提案しながら、使用割合を底上げする計画は出来ないものか。又、老人会への納入参加も呼びかけ、各種食材の納品目や納品単価を調べてながら調達率の提案は可能性があるように思える。
- 4、 埴中学校の各施設の運用の不備について、
茶道教室の利用が少なく、「現在は民間に貸し出しをしている」ことや、2階教室に作った男女別更衣室は「透明なガラスで着替えが見える」との理由で使われておらず倉庫として使用している。町や教育委員会が基本設計の段階で理解を深め、運用目的に合った熟知したプランをしておらず、本来の利用目的が達成されていない。小さな事例かも知れないが、積み重なれば大きな負担となる。税金の無駄としか言いようがない。
- 5、 埴中学校渡り廊下設置工事について、
工事費 45,190,950 円は建築物と金額を見ると高額に思われる。デザインや機能を損なわず、設計仕様を見直す事は出来なかったかと思う。
- 6、 埴中学校体育館の屋内天井について、
埴中学校入学式に参列した時に屋内天井が歪んでいた。改修工事をした筈なのに、経年劣化とは思われない。施工不良か雨漏れと思われるので、担当課にて調査をお願いしたい。
- 7、 埴中学校武道館について、

柔道や剣道を通して有意義な部活動に励んで貰いたい。少子化の問題で部員確保や指導者の健闘を願いたい。

- 8、 埜第1水源について、
施設プラントの技術的、経済性は未だ知識不足の為、今後の課題としたい。水質のより良い高い安全性をこれからも求めて欲しい。
- 9、 町道川上東河内線について、
以前からの懸案であったと聞いていて、早期の開通が望まれます。
なお、常豊郵便局のT字交差・西側の工事中断箇所の工事は、見通しが悪いために、早急に対処して欲しい。
- 10、 林道大日向線（常世中野）について、
計画上の無理があるように思われる。地形での制約で急勾配の路盤設計となり、積載大型車は登って行けないと思う。利用頻度を考えた林道工事を願いたい。なお、林道の管理は災害以外の場合を除き町負担となるため大変になる。農林省・林野庁の多くの予算は、搬出用道路として林道工事に費やされているのではないか。町内にはまだまだ優先順位の高い道路があるはずで、中央省庁間のせめぎ合いでしかない。
- 11、 若者定住住宅予定地（末広町）について、
新築時の景観は良いが、町内にある町営住宅の全ての外見や敷地周辺が老朽化している。特に、築年数の少ない金砂団地の建物外装や周辺が老朽化している。景観維持費はどのように考えているのか、入居者の共益費などで景観維持を考えなければならないし、新たに新築を作れば良いというものでもない。
- 12、 公共下水道施設（上石井）
本施設の高度浄水処理において、常にオゾン（活性酸素）が漏れ出ないように監視しながら、周辺環境への漏洩などからの緊急時対応は訓練されているのか、放流水の残留オゾン濃度は安全かを十分に注意して頂きたい。
- 13、 旧薩摩酒造工場／放射線測定について、
本施設の放射線測定は簡易検査なので、ゲルマニウム30測定値/NDが望ましく思われる。現在の国の食品安全基準値は100Bq/kgであるが、福島原発事故前は100Bq/kgで放射性廃棄物として青森県六ヶ所村に移送保管されていたこと、外部被曝も国の基準値・年/20mSv（国際放射線防護委員会（ICRP）が2007年に出した勧告では、事故発生等の緊急時における放射線防護の基準値を20～

100mSv とし、その下限値) なのだが、原発事故以前の年間/1mSv を原点としたい。更に、年間被曝基準値に内部被曝（吸引・食品被曝）は国の安全基準値に含まれてはならず、余りにも問題である。

1 4、旧薩摩酒造工場／竹粉製造現場について、
竹林の処理は必要と思われるが、「放射性分質が多く含まれる枝葉は加工に含まれない」と言っていたが、幹の部分の放射線の濃度は測定公表しているのか、肥料への表示義務がないからか、進行している放射性分質の森林循環問題を考えれば、安易な使用は考えたい。放射性分質の足し算にしかない。

1 5、板庭田野作湯舟線（板庭）について、
平成 26 年度からの旧橋撤去工事から平成 29 年度舗装工事完成まで「余りにも時間が掛かる」「旧橋を残して別路線計画があったのではないか」「工期が掛かるなら仮設の橋が欲しかった」など、利用者、地域住民の意見が多く聞こえます。「予算が付かないから」との説明だけでは、町民の理解や不満は解消されないと思う。効果的な予算獲得に努力して欲しい。

以上になります。